



閉谷福祉会の職員が
「にこり」「ほっと」したエピソードをつづやきます！

●初めて某企業でのパン販売に参加したYさん。商品の受け渡しや会計の対応、接客も落ち着いて丁寧に取組まれていました。外国人のお客様への対応では戸惑う場面もありましたが、帰りの車内では「今度はもっと上手にできるようになりたい。また販売に行きたい」と話されていました。初めての経験を通して、次はさらに頑張りたいという前向きな気持ちにつながったYさん。またひとつ素敵な一歩を踏み出した姿に感心しました。[閉谷ワークセンター・わけ 生活支援員]

●毎週水曜に開催している体操教室には、シニアの方や障害がある方など10名を超える方が参加され、笑い声が自然と湧き上が

るような時間を狙っています。体操が終わり、玄関で「ここへ来るのが楽しみなんよ」と言ってくれる言葉を聞き、私の顔もニコリとなり、今日もやり切った気持ちでうれしくなります。[東備地域生活支援センター・ふらっと K.A.]

●ケガをして湿布を貼っている利用者さんを見て、他利用者さんが「〇ちゃん、どうしたん？ 早くよくなったらええな」と言われ、相手を気遣う言葉ににこりほっとしました。[地域ホーム 生活支援員]

●リクエストされた昼食を、無言で食べられていた利用者さん。あまり美味しくないのかなと思っていましたが、食後には「美味し

かった！ また次も一緒に食べような！」と声をかけてくださいました。食事の内容を喜んでくださったことだけでなく、一緒に食事をしたいと言ってくださったことが何より嬉しく感じられました。[閉谷ワークセンター・わけ K.K.]

●身内が体調不良でしばらくお休みをいただいていた。復帰した際、同僚から「よくなった？ 大丈夫？」等の温かい言葉をかけてもらいました。世話人さんからは温かいメッセージをいただきました。会議に参加できなかったり、勤務調整等でご迷惑をお掛けしたのに、優しい言葉の一つひとつが本当に嬉しかったです。同僚や世話人さんから「勤務については気にしないでいい、家族を大切にしてください」という想いが、言葉やメッセージに込められていたことが本当に嬉しく、感謝でいっぱいになりました。[閉谷ライフステージ・せと M.O.]

社会福祉法人 閉谷福祉会が発行する年間広報誌です

SHIZUTANI しずたん

発行：社会福祉法人 閉谷福祉会 〒709-0403 岡山県和気郡和気町日笠下1613-5
※ご連絡は瀬戸事務所(事務局)まで(TEL.086-206-6644)

VOL.
05
2026年度版
10月15日発行

社会福祉法人
閉谷福祉会
shizutanifukushikai



閉谷福祉会の
ニュースや記録を
ご覧いただけます！



全10種 500円(税込)

事業所から車で20分以内の場所なら、5個以上のご注文で配達します！ 予約希望日の3日前までにご連絡ください。

日生
エリア

日生の漁港を望む道沿いにある、閉谷ワークセンター・ひなせの売店。ここでは毎朝、利用者さんと職員が協力しながら、2種類の日替わり弁当やお惣菜を手作りしています。人気メニューは「煮込みハンバーグ弁当」「油淋鶏弁当」「鶏肉のレモン漬け弁当」など。どれも税込500円で、ボリューム満点！ 地域の方を中心に、年配の方や外国の方など、幅広いお客様にご利用いただいています。最近注文販売も増えており、事業所から車で20分以内の場所なら、5個以上のご注文で配達もOK！ まずはお気軽にお問い合わせください。



閉谷ワークセンター・ひなせ

備前市日生町日生803-1
TEL.0869-72-9808

- 営業日：月～金曜
(祝日とその他事業所が定める日は休み)
- 営業時間：10:00～12:15



2025年度 閉谷福祉会 事業報告・決算報告

■2025年度 事業報告

2025年度、閉谷福祉会では法人が掲げる重点目標のうち、「人が輝ける環境をつくる」のもと「キャリアパス要綱」を全面改訂し、職員一人ひとりが「私の成長シート」を作成することで自らの目標と成果を実感でき、働きがいを見出せるよう、新たな人事評価システムの運用を開始しました。
また、新キャッチフレーズ「ともに笑い、ともに支え、ともに生きる」をかたちとする、「コモンズわけプロジェクト」を立ち上げ、将来誰もが安心して地域で暮らし続けられるように、障害福祉及びメンタルヘルスに関わる支援を一体的に行う拠点構想を一步進めました。

■2025年度 決算報告

(単位:千円)

資金収支計算書 (自)2025年4月1日(至)2026年3月31日			
	決算額		
	収入	支出	当期資金収支差額
事業活動による収支	1,464,471	1,304,981	159,490
施設整備等による収支	434	33,077	△ 32,643
その他の活動による収支	5,095	47,941	△ 42,846
当期資金収支差額合計	1,470,000	1,385,999	84,001

事業活動収支計算書 (自)2025年4月1日(至)2026年3月31日			
	収入	支出	当期活動収支差額
サービス活動増減の部	1,450,078	1,362,126	87,952
サービス活動外増減の部	14,393	991	13,402
特別増減の部	0	0	0
法人税、住民税及び事業税		200	△ 200
当期活動増減差額	1,464,471	1,363,317	101,154

貸借対照表 2026年3月31日現在			
資産の部		負債の部	
流動資産	919,338	流動負債	120,504
固定資産	1,475,702	固定負債	118,494
基本財産	968,054	負債の部 合計	238,998
その他の固定資産	507,648	純資産の部	
		基本金	281,553
		国庫補助金等特別積立金	175,843
		その他の積立金	150,000
		次期繰越活動増減差額	1,548,646
		純資産の部 合計	2,156,042
資産の部 合計	2,395,040	負債の部及び純資産の部 合計	2,395,040

閉谷福祉会 基本理念

「地域と共に生きる」

閉谷福祉会の基本方針

わたしたちは、次の3つの事項を基本方針として利用者のニーズ、障害の状況、ライフステージに対応したサービスや生活、就労の機会を提供できるように努めます。

①利用者の尊重 ②良質のサービス ③地域との連携

社会福祉法人 閉谷福祉会

居住支援事業

- ▶障害者支援施設 しずたに
- ▶閉谷福祉会地域ホーム
- ▶閉谷ライフステージ・せとはなみすき/すみれ/オリーブ/ボフロ/ユーカリ
- ▶桜が丘東グループホーム
- ▶グループホームひなせ なぎさホーム/せがえホーム

日中活動支援事業

- ▶閉谷ワークセンター・せと
- ▶閉谷ワークセンター・わけ
- ▶閉谷ワークセンター・あかいわ
- ▶閉谷ワークセンター・ひなせ
- ▶にじいろスクエア・せとうち 児童発達支援センターひよこ/生活介護事業所ひよこ
- ▶colorful space しずたに
- ▶障害者支援施設 しずたに (しずたにデザイン)

地域生活支援事業

- ▶東備地域生活支援センターふらっと
- ▶ホームヘルプサービス もみじの里
- ▶瀬戸内市地域生活支援センタースマイル



ノースカロライナで出会った、 一人ひとりが主役で尊重された支援。

アメリカ・ノースカロライナ州で、自閉症のある方への支援を学ぶ研修ツアーに参加した、colorful space しずたにの管理者・上里征人さん(写真左端)。現地での支援の様子や気づきについて、レポートにまとめていただきました。

colorful space しずたにでは、川崎医療福祉大学の小田桐早苗先生に毎月コンサルテーションに入っただいています。現場だけでなく、ケース検討や職員研修など、さまざまな場面で支援におけるアドバイスをいただいています。そんな小田桐先生から、2025年1月に「ノースカロライナツアー(以下、NCツアー)」に参加しませんか?とお誘いいただきました。

このツアーでの私の目標は、「TEACCHプログラムの実践を体感して学ぶこと」でした。特に印象に残ったのが、アメリカ・ノースカロライナ州アルバマールにあるGHA(Group Homes for the Autistic, Inc.)の訪問です。GHAは、自閉症の方に質の高い地域サービスを提供し、将来を見据えた成長の機会や、コミュニティに貢献できる環境づくりを理念としています。

デイサービスでは、視覚的なツールを使った品出しや買い物の練習、働くことを見据えた作業、電話の使い方や鍵の開閉を練習する機会などがありました。それらはすべて自立的に暮らしていくことを目標としており、本人にとっての意味が明確でした。

また、グループホームでも一人ひとりに個別のスケジュールがあり、場面ごとに手順が示されたワークシステムが設置されていました。居室には本人の好きな物や大切な物、家族の思い出などが反映され、過ごす空間の中に、自閉症の特性への配慮と個性の尊重がさりげなく両立していました。



就労を想定したポスティング作業



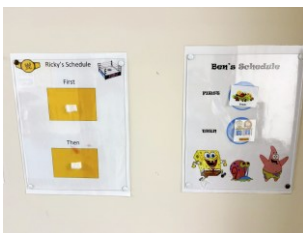
ワークシステムを活用してタオル畳み



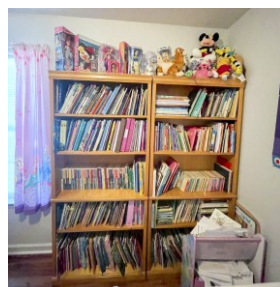
鍵の開閉を練習し、自分を守る方法を学ぶ



買い物やレジの経験ができる



形や長さが個別のスケジュール



大切なアイテムがぎっしり詰まった本棚

視覚的なツールに具体物を使う方も



本物の信号機が居室に!



大好きな物に囲まれて過ごす

日本との違いとして私が感じたのは、行動障害のある方だけでなく、自閉症の方全員にスポットが当てられ、課題となる行動への支援だけでなく、生活を豊かにする支援も充実していたことです。また、アセスメントに基づく一人ひとりの特性に合った環境づくりが、高齢期のグループホームにまで一貫していることも印象的でした。

今回のNCツアーを通して、これまで利用者さんが「できないこと」と思って支援していたことの中には、スキルを活かす場面を提供できていなかったり、経験がないために「やり方を知らない」こともあったのではないかと、自身の支援を振り返る機会となりました。

今後は、利用者さんが「知らないこと」を体験できる機会を増やし、学んだスキルを発揮できる場面につなげていきたいです。そのためにも、新しいことにアンテナを張って情報を得ること、実践を通して学び続けることを大切にしていきたいと思います。(上里 征人)



和気 エリア

食事を囲みながら、 地域の人と人がつながる場所を。

「ふらっと食堂」は、東備地域生活支援センターふらっとで、食事を通じて人と人がつながり、地域で「ともに生きる」ことを目指してスタートしました。もうすぐ1年を迎えます。毎月第2金曜日の16時~18時に開店。地域の方や利用者さんが立ち寄り、手作りのカレーを味わったり、職員とのおしゃべりを楽しんだりしています。子ども100円、高校生以上300円(和気高校の方は100円)で、どなたでも大歓迎! ぜひ気軽に「ふらっと」お越しください。



体操教室にもお邪魔しています



おいしいです!



赤磐 エリア



瀬戸内 エリア



自分から動く、みんなで楽しむ。 一人ひとりの「できた!」を喜び合う。

にじいろスクエア・せとうち 生活介護事業所ひばりでは、特別支援学校などで長年勤務された井上喜美子先生(写真左)の監修のもと、ジムやリトミックの活動に取り組んでいます。ジムでは、ストレッチやバランス運動、フィットネスバイクなどを行っています。手順表やイラストなどで環境を整え、利用者さんが見通しを持って、自律的に取り組めるよう工夫しています。リトミックでは、音楽に合わせて歩いたり踊ったりしながら、楽しく体を動かします。「対等なひとりの人として向き合い、お互いがいい時間だったと思えることを、職員さんと協働しつつくっついていけたらと思いました」と話す井上先生。体を動かす楽しさを感じながら、達成感や喜びをみんなで分かち合う時間となっています。



先生との会話も楽しみに。 元気を支えるリハビリ時間。

ワークセンター・あかいわで行っている「リハビリ」についてご紹介します。月に1~2回、外部の医療機関から理学療法士の先生をお招きし、対象となる利用者さんを中心にリハビリを行っています。その日の体調に合わせて、ストレッチやマッサージをしていただくほか、先生とのコミュニケーションを楽しみにしている利用者さんもおられます。また、先生からのアドバイスをもとに、ストレッチを取り入れた自立課題に取り組むこともあります。利用者さんが健康に、安心して過ごせるよう、これからも一人ひとりの体調に合わせた取り組みを続けていきたいと思っています。

しずたにストーリー 365 DAYS

関谷福祉会では、各事業所の日々の様子を毎月ブログで発信しています。今回は、その中から最近のエピソードをピックアップしてご紹介。利用者さんの楽しんでいる様子や心温まる出来事など、日々たくさんの素敵な物語が生まれています。

各事業所のブログはこちらでCHECK!



Colorful space しずたに

誕生日外出は、個別に出かけるので、お昼ごはんは好きなメニューが選んでもらえます。普段食べられないものや、ジャンクだけだとたまにはお腹いっぱい食べたいものなどを楽しんでもらっています。

4年ぶりの凱旋となる「木下大サーカス」へ。空中ブランコや空中大車輪、ポニーのショーなど、迫力満点のパフォーマンスに大興奮！一緒に体を動かしたり、スリル満点の演目にドキドキしたりと、サーカスの世界を楽しませていました。



関谷ワークセンター・せと



しずたにデイサポ

待ちに待った手作りカレーの日。甘口カレーをご飯にたっぷりよそい、トッピングにはウインナー＆ミニハンバーグ。甘口バーモントの笑顔がデイサポいっぱいに広がり最高の昼食になりました。

毎年恒例の夕涼み会を開催しました！千本引きやガチャガチャ、射的のゲーム、フランクフルトやかき氷で夜店の雰囲気を楽しみました。外ではなんと、クレープのキッチンカーもお呼びし、出来立てを楽しめました♪



障害者支援施設 しずたに

夏祭りを開催しました。今年も保護者の方と一緒にスタンプラリーをしながら、各コーナーを巡りました。制作コーナーでは世界にひとつだけの作品づくりを楽しみ、食べるコーナーでは笑顔がいっぱい♪遊びのコーナーでは夢中になって体を動かし、会場は子どもたちの元気な笑い声であふれていました。

にじいろスクエア・せとうち
児童発達支援センターひよこ



東備地域生活支援センターふらっと

8月22日に「ふらっと祭り」を開催しました。約20名の方が参加され、焼きそばやフランクフルト、焼き鳥、かき氷といった食事や、「千本引き」や「つかみ取り」「箱の中身はなんだろうな？」のゲームもあり、皆さん楽しませていました！

日笠盆踊りに参加しました。心配していた天気も、晴れ、例年より過ごしやすい気候でした。食べたかったフランクフルトをガブリ！チキンナゲットやジュース…そして、ゲーム！皆さん思い思いに楽しめた様子でした。



関谷福祉会地域ホーム



関谷ワークセンター・ひなせ

「映画観賞会」を開催しました！利用者さんからのリクエストで大人気アニメ「鬼滅の刃」を上映しました。途中お菓子と飲み物で休憩タイムを挟み、最後まで楽しく鑑賞しました。「楽しかった～」「また観たい！」と皆さん大満足でした。

関谷ワークセンター・あかいわ



「きらめく個性アート展」に向けた作品作りが始まっています。テーマは“私のすきなもの”。自分の“好き”が思いついた瞬間、表情がパツと輝き笑顔になられたのがすごく印象的でした。どんな作品ができるか今から楽しみです。

6月のカラオケ大会が、利用者の皆様とても楽しかったようで…。アンコールにお応えして、再度開催。お盆の特別企画となりました!!



瀬戸内市地域生活支援センタースマイル



にじいろスクエア・せとうち
生活介護事業所ひばり

花火の壁面製作を行いました。折り紙やマスキングテープを使い、それぞれ個性のある花火を表現しました。完成した作品を並べると、壁いっぱいに夏の夜空が広がりました。

チャレンジワークの中学生がワークわけに来てくれました。パン、内職、ランドリー、どの仕事も一生懸命取り組んでくださいました。「利用者さんは簡単そうに作業してるけど、やってみると難しかったです」と感想を教えてくれた学生さんもおられました。



関谷ワークセンター・わけ

フクシの仕事 Vol. 4

利用者さんのお話を傾聴することを大切に、日々勉強しながら励んでいます。

——今年から相談の仕事に異動されたんですね。
「私にできるのかな？」という不安もありましたが、やってみたい気持ちもあり、前向きに取り組んでいます。まだまだ勉強中ですが、利用者さんのお話を伺ってニーズを整理し、計画を作成したり、事業所を訪問してモニタリングを行ったりしています。そのほか、皿型の居場所づくりの仕事や広報活動も担当しています。

一緒に働く仲間を探しています！



▶詳しくは採用サイトまで！

——新しい仕事に少しずつ慣れてきた頃でしょうか。
現在、70名ほどの利用者さんを担当しています。まずは名前を覚えることから始まり、一人ひとりのことを知り、少しずつ関係を築いているところです。まだ知らないことも多く、緊張したり接し方に悩んだりすることもあります。まずは「お話をしっかり伺うこと」を大切にしています。自分より年上の利用者さんも多く、いろいろなことを教えていただいたり、かわいがっていただいたりしながら、たくさんのことを受け取っていると感じます。

——研修にも積極的に参加されているようですね。
相談技術の研修に参加させていただき、日々勉強しています。また、職場には経験豊富な先輩がたくさんいるので、困ったときには相談しながらいろいろなことを教えてもらっています。そんな中、利用者さんの表情が明るくなったり、生活に変化が見られたりするととてもうれしく、少しずつ信頼関係を築けているという実感が、大きなやりがいにつながっています。

東備地域生活支援センターふらっと
相談員 神田 えみり



[PROFILE]
2021年入職、現在6年目。障害者支援施設しずたにで生活支援員として勤務し、2026年4月に東備地域生活支援センターふらっとへ異動。現在は相談員として、利用者さんの相談支援に携わっている。

01) おかやま子育て応援宣言 アドバンス企業認定！

このたび社会福祉法人 関谷福祉会は、岡山県が推進する「おかやま子育て応援宣言企業」において、より高い水準の取り組みを行う「アドバンス企業」として認定されました。「おかやま子育て応援宣言企業」は、企業が仕事と子育ての両立支援を宣言する制度ですが、今回認定された「アドバンス企業」は、その宣言に基づき、男性の育児休業取得や残業削減などにおいて、具体的な実績を上げた企業のみが認められるものです。今後も、職員一人ひとりが仕事とプライベートを両立し、最大限のパフォーマンスを発揮できる環境づくりに努めてまいります。

02) DX化を進めています

DX委員会では、業務の効率化と支援の質の向上に向けて、DX化に取り組んでいます。現在は、その一環として勤怠管理システムの導入を進めています。これまで時間をかけて行っていたアナログ作業をデジタル化し、IT資源を有効に活用することで、業務の負担を軽減します。生み出された時間を、利用者さんと向き合う時間や、よりよい支援環境を考えるための時間へ。業務のデジタル化を通じて、これまで以上に質の高い、より手厚い福祉サービスの提供を目指します。

03) ホームページ、リニューアル準備中！

関谷福祉会は、来年度に創立40周年を迎えます。その節目に合わせ、広報会議では、ホームページの全面リニューアルを進めています。これまで以上に迅速で柔軟な情報発信ができるよう、また、パソコンだけでなくスマートフォンからも見やすく、より身近に感じていただけるホームページを目指しています。40年の歩みを大切にしながら、これからの関谷福祉会を伝えていけるホームページへのリニューアル。来春の完成をどうぞ楽しみに！



6/13開催 法人全体研修会

6月13日、「令和8年度 法人全体研修会」を開催しました。理事長からは、本法人が大切にしている「人権7カ条」についてお話いただき、理念を振り返りました。また、恒例の新人紹介では、新たな仲間から意気込みを聞くことができました。研修では、兵庫県立大学の岸本和美先生を講師にお迎えし、「知的障害と自閉スペクトラムのある方の支援の原則」をテーマに学びました。障害特性や「決まった日課があると安定しやすい」といった特性への理解を深め、「自由は不自由」という視点や、分ける・できることを増やすことが自立につながることを学びました。グループワークでは課題分析にも取り組み、事業所を越えて支援の工夫を共有しました。



7/30・31開催 G1研修

7月30日・31日の2日間、勤続5年以上の中堅職員を対象とした研修を実施しました。初日は、本法人の顧問社会保険労務士でキャリアコンサルタントの中前貴子氏を講師に迎え、これまでの経験やスキルを振り返り、自分の価値観や強みを整理しながら、これからのキャリアについて考えました。2日目のグループワークでは、東備地域生活支援センターふらっとの朝倉吉宣さんが講師を務めました。支援でも活用される「ミスポジション」の視点から、自分の課題や周囲から期待される役割を整理。将来の自分を思い描き、理想の自分に向けた一歩を発表し、互いの挑戦を応援するフィードバックを送り合いました。参加者同士で学び合い、今後の成長につながる2日間となりました。

スキルアップ！

より良い支援を目指して！

「ノーマライゼーション」

にじいろスクエア・せとうち 所長(管理者) 河野 智史

「ノーマライゼーション」、私が入職したときによく聞いた言葉です。ノーマライゼーションは、デンマークのN.E.バンク＝ミケルセンによって提唱されました。知的障害者施設の入所者が一般の暮らしから大きく隔てられた生活を送っている現状に対し、「障害のある人も市民として普通の生活ができるようにすべきだ」という考え方が広まりました。

▶ ノーマライゼーションの八つの原理

1. 1日の普通のリズム：朝起きて身支度をし、家庭的な環境で食事をとり、夜は休むという一般的な生活リズムを持つ。
2. 生活場面の分離：住まい・学ぶ場所・働く場所・余暇の場を分け、社会の生活に近い多様な活動ができるようにする。
3. 季節・年中行事を含む普通のリズム：祝日や季節の変化、年中行事を体験し、社会と同じ年間の流れで生活する。
4. 発達段階に応じたライフサイクル経験：子ども期から高齢期まで、年齢に応じた学び・働く・家庭・社会参加などの経験を保障する。
5. 個人の尊厳と自己決定：本人の希望や意思を表明でき、それが最大限尊重されること。
6. 自然な恋愛や交流の機会：一般の人と同じ自然な関係を持つ権利を保障する。
7. 普通の経済水準：一般社会と同等の収入・社会保障・制度利用を確保し、自立や社会参加に必要な生活水準を得る。
8. 一般と同等の住環境・地域環境：病院・学校・住まいなどの物理的環境を整える。

最近、意思決定支援・インクルーシブ教育・合理的配慮などの言葉をよく聞きますが、さらに細分化しより良い支援を求めて進んでいるようにも感じています。

「ノーマライゼーション」、僕が初めてこの言葉を聞いた時の感想は、「この仕事をなくすことが目標となるのかな」と素直に感じたことを、この記事を書きながら思い出しました。それから30年、今もノーマライゼーションの理念を持ちつつも、模索し続ける問いとして向き合っていますよ！と、あの頃の自分に伝えたいです。でもちょっと進歩したんよとも伝えたいと思います。



vol. 3 管理者

リレーコラム

▼ 関谷未来図

～理事・統括施設長メッセージ～

「必要な支援を未来につなぐ、持続可能な福祉経営を目指して。」

障害福祉サービスの報酬を3年ごとに見直す報酬改定が令和9年度に実施されるため、現在厚生労働省で議論が進められています。事業者の立場で申し上げれば、年々厳しさを増す人材確保に向けた賃金改善など、山積する課題の解決に向けた経営努力をサポートしてもらえるような報酬改定をお願いしたいところですが、気になる動きがあります。消費税減税の代替財源のことです。

政府は物価高対策として食料品の消費税率を引き下げる方針です。1%になれば、確かに家計が楽になりますし、事業所にとっても食材費等の負担が軽減されれば大変助かります。ただ、消費税は年金・医療・介護・子育て支援の社会保障4経費に充てる社会保障目的税と位置付けられている税金です。減税によってその税収が減れば、社会保障の財源が影響を受けます。代替財源のめどは立っているのでしょうか。

減税の穴埋めが別の税負担や社会保険料の増額、補助金の縮小、歳出抑制等で行われれば、直接または間接的に負担として跳ね返ってきます。特にこの歳出抑制、大義名分となって報酬改定でもまかり通ってしまったらどうなるのか。現在のサービス提供体制を維持することが困難になる状況ですら現実味を帯びてきます。

少子高齢化が進む中、年々増大する社会保障経費をまかなうための安定財源確保が課題となる中、社会保障・税一体改革によって消費税がその財源として明確化されたという国民的合意があったはず。社会保障というセーフティネットが将来にわたって我々の生活を支えてくれるという安心感は守られなければなりません。

大変厳しい経営環境ではありますが、障害のある方が必要な支援を受け続けることができるよう努めることが、関谷福祉会の使命と考えます。職員全体で知恵を出し合って持続可能な経営を目指します。

理事・統括施設長
中島 健一

